

県サッカー協会に所属する審判員・小出貴彦さん(24)＝松本市島内＝が、日本サッカー協会(JFA)の1級審判員に認定された。JFAが主催する全国規模の選手権大会やJリーグを判定する1級審判員の誕生は中信地方で初めて、県内では4人目で、現在、国内で最年少という。経験を積んで実力が認められれば国際審判員にもつながるポストで、「ワールドカップ(W杯)で活動できるまでに成長したい」と気合を入れている。(有賀文香)

県サッカー協会 松本の小出貴彦さん



JFAからサッカー1級審判員に認定された小出さん

手だけがサッカーではない。この世界で上を目指す。優しさと厳しさを兼ね備えた審判員に成長し、先輩たちの目標になってほしい」と激励する。

1級審判員にも段階があり、国際審判員を目指す。存在になりたい」と目を輝かせた。

国内最年少 1級審判員に 中信初 W杯の舞台夢見る

信州大学大学院に在学する小出さんは一昨年、JFAの審判育成機関・レフェリーカレッジに月2回通い、技術や知識、語学の習得や体力づくり、メンタルトレーニングなど、島内小学校4年の時に松島FCジュニアに所属してサッカーを始めて、1月にJFAから認定された。松島中学校時代に審判員4級を取得した。審判の道を本格的に意識するようになったのは松本県ヶ丘高校進学後だ。審判員の資格取得に励むサッカー部の先輩の影響で「選

会によると県内では平成20年に最初の1級審判員が誕生した。当初は他県に遅れを取っていたが、近年は選手の育成とともに審判員の裾野も広がってきたといい、同協会の窪修一

任せられるにはJ1の主審や副審を務めるまでになることが最低条件だ。今後は年30〜40試合に臨む必要があるため大学院は退学し、活動に理解を示す上条器械店松本営業所(笹